

三井美唄鉱山の思い出

藤井 喜代子

春にはまだ肌寒く、買い物に出かけるのも風花の舞い散る今日このごろです。

振り返ってみると、戦後 50 年を迎えているなど、日々の忙しさに年経るのも忘れていたのです。

昭和 18 年のころだったでしょうか。この戦争は「自立自衛」のためであるから、儉約を旨として国民総動員で頑張るよう励行されました。大東亜戦争の真只中でした。

- 一．欲しがりません勝つまでは
- 二．米英を撃ちてし止まん
- 三．兵隊さんよ有難う
- 四．銃後の守りは女等の手で
- 五．八紘一宇*1、挙国一致

とラジオ放送では国民の心を強く啓蒙し、軍事ニュースは軍艦マーチが入り、「敵艦〇〇隻撃沈せり」を聞き、力づけられていました。男子はほとんど出征、召集となり、重労働も女性ばかりで余儀なくされ、また歌謡曲の「愛国の花」の「真白き富士の気高さを、心の強い楯として、御国に尽くす女等は、輝く御代の山ざくら、地に咲き匂う国の花」と煽られ、言葉どおり銃後の守りは女性たちと言われ、活躍したのです。

国防婦人会*2 など盛んになり、焼夷弾投下の消火訓練のためのバケツで水運びするなど、各班毎に強行されたのです。

日常の物資も不足し、女性にとって衣料切符制度の点数で買う必需品の糸、軍手、沓下、下着など限られていました。当然、破れれば継ぎ布をして使用したものです。

* * * * *

第一話 ― 石炭産業は軍需鉱業でした。その三井鉱業所事務所に私は勤務していました。また戦時下であり、各自の職務に精出している時のことです。昼食のサイレンが鳴り食事を済ませました。その時に「皆さんのアルミ弁当箱を献納してください」と言われ全員の弁当箱が回収されました。

第二話 ― 石炭は燃料として重要であったにもかかわらず、鉱員でも赤紙（召集令状）で戦地に征きました。男手不足の補いとして、私達も鉱内で使用する坑木（坑内通路の柱）を運搬する（坑内へ行く炭車まで）のに、肩に座ぶとんを当てて作業をさせられたのです。こんな時、日本の勝利に不安を感じ、非国民の自分に身ぶるいをしたのです。

戦争は益々激しくなり、東京は空襲で焼夷弾*3 の雨と化しました。

三井美唄は、遙か上空を B 29 号の爆撃機が飛んで行きましたが、家族は灯火管制*4 をし、労働者はそれぞれの職場へ行かねばなりません。防空頭巾をかぶり、常備品の炒り大豆、乾パン、懐中電灯、水筒など入った暴風袋を肩にかけ、真暗闇の中を職場に掛けつけたことを、

今になってみると私も強かったものだと思います。

昭和 20 年 8 月 15 日の終戦を迎え、戦場で天皇陛下の玉音を拝聴し、最初は耳を疑ったけれど、後で冷静に考えたとき、日本が負けたことを知ったのです。何する術もなく涙が出てなりませんでした。

米兵が侵入するのだ、私たちは、どうなるのか……急に体中が震えました。この時の心境は忘れられません。(民主主義アメリカは私達が心配したほどでもありませんでした。)

国の名も大日本帝国から日本に改められ、教育方針もすっかり変わったこと。特に石炭産業は復興産業に変わり、復員者も徐々に増え、鉱山は増産の一途、労働者は活発に働きました。

財閥も解体となり、戦前戦後の労働者は、低賃金で働いたことの思いが爆発し、労働組合の結成を見ました。

第三話 ー ある日会社で私達の執務中、労働組合の 15、6 人が事務所内の経理課長を囲み、詰め寄り談判が始まり、無言の睨み合いが続きました。賃金値上げのことだったのです。時折、怒声で強張った行動にも課長は無言でした。手を振り上げんばかりの雰囲気には驚きましたが、睨んで威嚇をしながら退散しました。あの時は恐くて、汗が全身を走りました。

三井美唄鉱業所労働組合の起こりだったのです。その後、組合と会社は手を繋ぎ、経営委員会などをつくり、増産をたどっていましたが、エネルギーの革命により昭和 38 年閉山のやむなきに至りました。三井美唄鉱業所の閉山を契機として、その後北海道内の炭鉱が次々と閉山していきました。

* * * * *

私も三井美唄の住人として永く勤め過ごして、色々思い出はありますが、ここに述べた三話が心に強く印象づけられたことで、簡単にまとめた次第です。

(ふじい きよこ 大正 13 年生まれ)

***1 八紘一字** 全世界(八紘=あめのした)を一つの家(宇)のように統一すること。田中智学(宗教学)が造語したといわれている。「大東亜共栄圏」確立、アジア支配のためのスローガンにしていた。

***2 国防婦人会** 昭和 7 年 12 月、「大日本国防婦人会」発足。カッポウ着にタスキがけが正式の会服だった。国防献金、出征兵の見送り、傷病兵の送迎、慰問袋作り、兵営や陸軍病院での洗濯奉仕などの活動をした。昭和 20 年には愛国婦人会、大日本連合婦人会とともに統一され、「大日本婦人会」となる。美唄町では、各地区の分会に分かれていた国防婦人会が昭和 13 年 11 月に「美唄町国防婦人連合会」に統一された。

***3 焼夷弾** 石油・揮発油などの薬剤を装置した爆弾。または砲弾。建造物を焼失させるなどの目的で用いる。

***4 燈火管制** 夜間の敵機来襲に備え、爆撃の目標にならないように、明かりを消したり黒い布で電灯を覆ったりした。